



第 145 回津文化協会文化講演会

第 107 回文化講演会？「発見塾」三重大学シリーズ

演 題 「キリシタン宣教師が観察した戦国時代の話し言葉」

講 師 川口 敦子 氏 三重大学 人文学部 教授

大河ドラマでは戦国時代が人気ですが、登場人物のセリフを聞きながら、ふと「この時代、こんな話し方のはずがないよね」と思うことはありませんか。では、実際にはどんな話し方をしていたのでしょうか。戦国時代に来日したキリシタン宣教師は、日本での布教活動のために日本語を研究し、日本語の文学書や辞書、文法書を編纂しました。そして、彼らの文字、つまりポルトガル語式のローマ字で日本語を書く方法を編み出しました。このローマ字によって、漢字や仮名だけではわからない、当時の日本語の発音を知ることができます。天草版『平家物語』や『日葡辞書』、ロドリゲス『日本大文典』等の記述から、戦国時代の話し言葉に触れてみましょう。

日 時 令和 5 年 7 月 22 日 (土) 13:30～15:00

会 場 津リージョンプラザ 3F 第 7 会議室

津市西丸之内 23-1



主 催 津市民文化祭実行委員会

主 管 津文化協会

後 援 三重大学 三重ふるさと新聞社

？「発見塾」ホームページ <http://www.mie-u.ac.jp/hakugaku/hakken/index.html>

連絡先 TEL 090-1236-1144 (辻本 當)

※津文化協会では会員を募集しています。

当協会事務局または？『発見塾』開催時、受付までお申込み下さい。

※講演会が中止になった場合は津市ホームページ、上記発見塾ホームページ等でお知らせします。